

大西電気(株) (コード 3095)

- ・ 上場日 2月26日
- ・ 上場取引所 ジャスダック
- ・ 資本金 3億9,540万円(上場時)
- ・ 発行済株式総数 207万株(上場時)
- ・ 売買単位 100株
- ・ 決算期 3月末
- ・ 公募 20万株
- ・ 売り出し 20万株(他にオーバーアロットメント:上限6万株)
- ・ 公募価格 1,000円
- ・ 本社 京都市南区東九条松田町138-2
- ・ 社長 大西 俊一
- ・ 従業員 120人(連結ベース・2007年12月31日現在)

業績推移(連結:06年3月期が初年度) (-は比較なし。単位:百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		当期利益		一株当利益
		伸び率		伸び率		伸び率	
06.3(9カ月)	9,407	-	312	-	164	-	758.9
07.3	13,573	-	596	-	320	-	1,711.5
08.3(予)	14,300	+5.4	646	+8.4	402	+25.6	194.3

業績推移(単体) (-は比較なし。単位:百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		当期利益		一株当利益	一株当配当
		伸び率		伸び率		伸び率		
06.3(9カ月)	6,999	-	263	-	137	-	616.4	37.5
07.3	11,544	-	612	-	340	-	1,818.7	75.0
08.3(予)	12,009	+4.0	597	-2.5	364	+7.1	175.9	40.0

(07年7月18日付で株式分割<1株 10株>を実施。)

ワイヤーハーネスなど電気・電子関連部材を扱う商社

電気・電子関連部材を扱う商社。事業別の売上高構成比率(07年9月中間期実績、連結ベース)は、電気材料が27.5%、電気部品が37%、電気モジュールが13.1%、フラットパネルディスプレイ関連材料・部品が16%、無線周辺機器関連材料・部品が2.3%、その他が4.1%となっている。

電線にコネクタなどの部品を取り付けたワイヤーハーネス、工業用粘着テープ、プリント基板、小型電池、工業ヒーター、電子部品、電気絶縁材料などを、家電メーカー、産業機器メーカー、電子部品メーカー、アミューズメント関連メーカーなどのエレクトロニクス産業分野に販売している。主な製品としては、電気材料では、電気用テープ(電気絶縁、電磁波シールド)、片面テープ(マスキング、固定、耐熱用)、両面テープ(各種接合、異材料接合)、接着剤(部品固定用)、テープ複合加工品(電池パック用テープ加工)、電気絶縁材料(携帯電話用電池パック絶縁用)など。電気部品では、コネクタ(基板対電線、電線対電線接続用)、放熱板(部品放熱用)、配線部品(基板用アクセサリ、配線結束用)、電池(電源用)、フレキシブル基板(半導体製造装置用)など。電気モジュールでは、ワイヤーハーネス(携帯電話用)、省配線(産業用ロボット用)、ヒーター(産業用高温・広面積ヒーター)、無停電電源装置(計測器・医療機器用)など。

フラットパネルディスプレイ関連材料・部品では、プラズマテレビ用放熱シートなど。無線周辺機器関連材料・部品では、ICカード、ICカード用アンテナ、カードリーダー、ICタグ（商品認識用）など。また、クリーンルーム用製品（静電気対策用、防塵用）マスク、ノンスリップ製品、導電マット（安全衛生対策用）なども扱っている。

07年3月期は薄型テレビ向け、ゲーム機向けなどが好調

07年3月期業績では、連結ベースで売上高135億7,300万円、営業利益5億9,400万円、経常利益5億9,600万円、当期利益3億2,000万円となった（06年3月期が9カ月決算のため比較なし）。品目別売上では、販売台数が増加した薄型テレビ向けにフラットパネルディスプレイ関連の材料・部品が好調。また、携帯ゲーム機・据え置き型ゲーム機のヒットに支えられ、アミューズメント関連材料も拡大。販売関係の増員や管理関係人員の拡充を図った一方で、テープ加工品、電源装置、フレキシブル基板のような粗利益率の高い商品の販売構成が増加したことから、売上高営業利益率は06年3月期の2.9%から07年3月期には4.4%に上昇した。

08年3月期は増収増益見込み、実質増配を予定

07年9月中間期は、連結ベースで売上高68億200万円、営業利益3億3,200万円、経常利益3億2,400万円、中間純利益2億100万円となった。携帯ゲーム機や据え置き型ゲーム機の市場が順調に拡大した影響から、アミューズメント関連材料・部品の伸びが大きく、また、前年に引き続きフラットパネルディスプレイ関連材料・部品も伸長。医療機器をはじめ各種機器で使用される電源および太陽光セル用製造装置に使用されるヒーターの販売が拡大した。

08年3月期の通期については、連結ベースで売上高143億円（07年3月期比5.4%増）営業利益6億8,100万円（同14.6%増）経常利益6億4,600万円（同8.4%増）当期純利益4億200万円（同25.6%増）の見通し。配当は年40円を予定しており、07年3月期（年75円だが、07年7月18日付で実施した株式分割〔1株10株〕を考慮すると年7円50銭）からは大幅な増配となる。

売上高については、特にゲーム機市場向けの商品やフラットパネルディスプレイ関連材料の伸長、活況な企業の設備投資を背景とする半導体製造装置関連商品、液晶製造装置関連商品の販売増などが貢献しそう。売上総利益についても、ゲーム機市場向けの商品、半導体製造装置関連商品、液晶製造装置関連商品の販売増を受けて増益の見込み。一方、同社の販売管理費においては人件費が50%以上を占めており、人員の増減が販売管理費の変動の大きな要因となっているが、同社では人員推移予定表に照らし合わせて計画を立てており、今期の販売管理費は連結ベースで同1.5%減の見通し。売上高営業利益率も4.8%に高まる見込み。営業活動で取得した資金によって有利子負債減少が見込まれ、支払利息は減少へ。上場関連の初期費用もこなし、経常増益となりそう。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。本レポートは、2008年1月発行の「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」および2008年1月24日に大西電気株式会社が発表した「平成20年3月期業績予想について」の内容の範囲内で作成しました。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。